

花の里づくりの会

第2号会報2006年4月1日発行



武相不動尊 酉年大開帳

武相不動尊とは、昔の武蔵の国と相模の国にある不動明王をお祭りしているお寺を巡り所願成就・無病息災などを祈る霊場です。ちなみに一番は川崎大師で、二番は身代わり地蔵で、最後の二十八番が高幡不動です。遍照山 光明寺は第二十六番札所です。江戸時代よりこの霊場を巡る人々が多くなりましたが、その霊験を護るため、十二年に一度、酉年の時だけ開帳を行います。平成十七年酉年の開帳は五月一日～二十八日まででした。この間、寺の参道に登旗をたて、境内に角塔婆(かくとうば)を立て、そこから五色の布でできた善の綱(緑の綱)を不動明王の腕につなげ



ます。参拝客、巡礼者はこの善の綱に触れ伝いながら参拝し、不動明王との縁を結ぶのです。不動明王の御手にかけて参詣人が引く綱で、お不動さんにおすがりするという意味があります。当山の本堂裏手の山の上に花の里づくりの会で以前に植えたシヤクナゲとエビネランがあります。





ごあいさつ

会員の皆様には、お元気にてお過ごしのこととご推察申し上げます。

早いもので、会報二号をお届けする時期となりました。

おかげ様で会の趣旨にご賛同いただき、入会して下さる方も徐々にではありますが増えており、誠に喜ばしいことと思えます。

会の運営、事業も皆様方のご協力により予定通り消化しております。又、植栽した品々も一部に補植したものもありましたが、概ね順調に生育しておりますことをご報告させていただきます。

尚、今回会員の皆様の「声」を検討した結果、新しい取り組みとして次の事業を取り入れることとなりました。事業内容は、新羽丘陵公園にある花壇の周辺に新羽小学校の卒業生に卒業記念樹を植えてもらい、新羽町を「ふる里」として思い出してもらえればと思い計画致しました。

これは、「新羽丘陵公園愛護会」を窓口として港北土木事務所のご理解をいただき実現することができました。新羽小学校にも大変喜んでいただいております。植栽は、三月二日(木)に関係者多勢にて実施しました。植栽の様子は4頁に記載してありますのでご覧いただきたいと思えます。又、時間がありましたら、現地を見ていただければと思えます。これからも皆様方のご理解とご協力をいただき、より充実した活動をしてまいりますので、よろしくお願い申し上げます、ごあいさつとさせていただきます。



花の里づくりの会 会長 中山 宏

新羽丘陵公園での卒業記念植樹



今年の卒業生は、ちょうど第一回目の記念
 植樹とがさなり、卒業の記念となりました。
 こんな行事を考えました。地域のち々本
 土にありますがございます。これからの卒業
 生も今年と同じように記念植樹で記念を作
 りあげて下さい。

庄司 朝一郎

私たちが木
 卒業にまわって、花々里のりや会々の協
 力を得て、記念植樹を行いました。アヌボウ
 シといふ木は、白いかわいい花が咲くもので
 す。早速この木と共に成長し、将来、ま
 この木に集まりたいです。

増田 紗也如

平成十八年三月二日



初めての植樹

根本 夏希

今年の卒業生は、初めての植樹ということ
で、みんなとても楽しみにしていました。
六年生のおんなも、「何年後、見に行こうね
とが、「私達が初めてなんて、うれしいね。」
などの言葉も聞こえてきました。本当にいい
思い出になりました。ありがとうございました。

思い出の木

酒川 みなみ

私たち卒業生は、卒業まであと少しです。
そんな私たちには、花の里づくりの会の皆さん
にも協力して頂きヤマボウシを植えました。
将来、私たちはこの木の周りを囲んで成長を
見届けたいと思います。

記念植樹と子どもたち

新羽小学校長 長尾静子

子どもたちは、新羽丘陵（トルネード）公園で遊んだり虫取りをしたり、スケッチをしたりと、たくさんの思い出があります。そこに、新羽の花の里づくり委員会会長、新羽丘陵公園愛護会会長はじめ地域の皆様のご尽力で卒業記念の植樹を行うことができました。今後継続してくださるといことで、学校にとって大変喜ばしいことです。

子どもたちはトルネード公園が、遊びの場から思い出の場、成長を確かめる場になっていくことでしょう。そして、卒業記念樹のトキワヤマボウシを見上げながら、新羽を支える一人として成長されることを楽しみにしております。

貴重な体験の機会をいただき、地域の皆様の温かいご支援に深く感謝申し上げます。

植樹祭（記念植樹祭）

P T A 会長 岸 芳雄

人は、昔から森林の恵みを精一杯受けて、くらして来ました。木から作られるのはもちろん、豊かな水も土も、酸素も森林がはぐくんでくれたものです。そして時には、美しい花や若葉の頃を楽しんで心豊かになることも出来るのです。樹木であっても、人の手がかかり、人が大切にするとという心がなければ存在することはないでしょう。記念樹であるトキワヤマボウシの木が、立派に育つとともに六年生も大きく羽ばたいてほしいです。

◆トキワヤマボウシ◆

ヤマボウシは、北海道を除く日本各地、朝鮮半島、中国などに自生しています。高さ15メートルになる高木でして、六～七月に葉が開いた後に開花します。実は、花卉に見えるのは苞でして、苞は四枚で白色で、先端が尖ります。果実は球形で、直径2センチ弱、秋に赤く熟したものは食用になります。普通のヤマボウシは落葉性ですが、最近、常緑性種であるトキワヤマボウシが出回っています。落葉性種と違い、あまり大きな木にならないのが特徴です。トキワとは常緑という意味があるのですよ。この常緑性種には、中国原産で白い花を咲かせるホンコンエンシスや、中国南部～ヒマラヤの高地に自生していて、淡い黄緑色の花を咲かせるヒマラヤヤマボウシなどがあります。



トキワヤマボウシ

光明寺

酔芙蓉夕方になると赤く染まります。

エビネラン

エビネランの植栽地

シャクナゲ

萩

善教寺

本堂の上のけむりの木



けむりの木



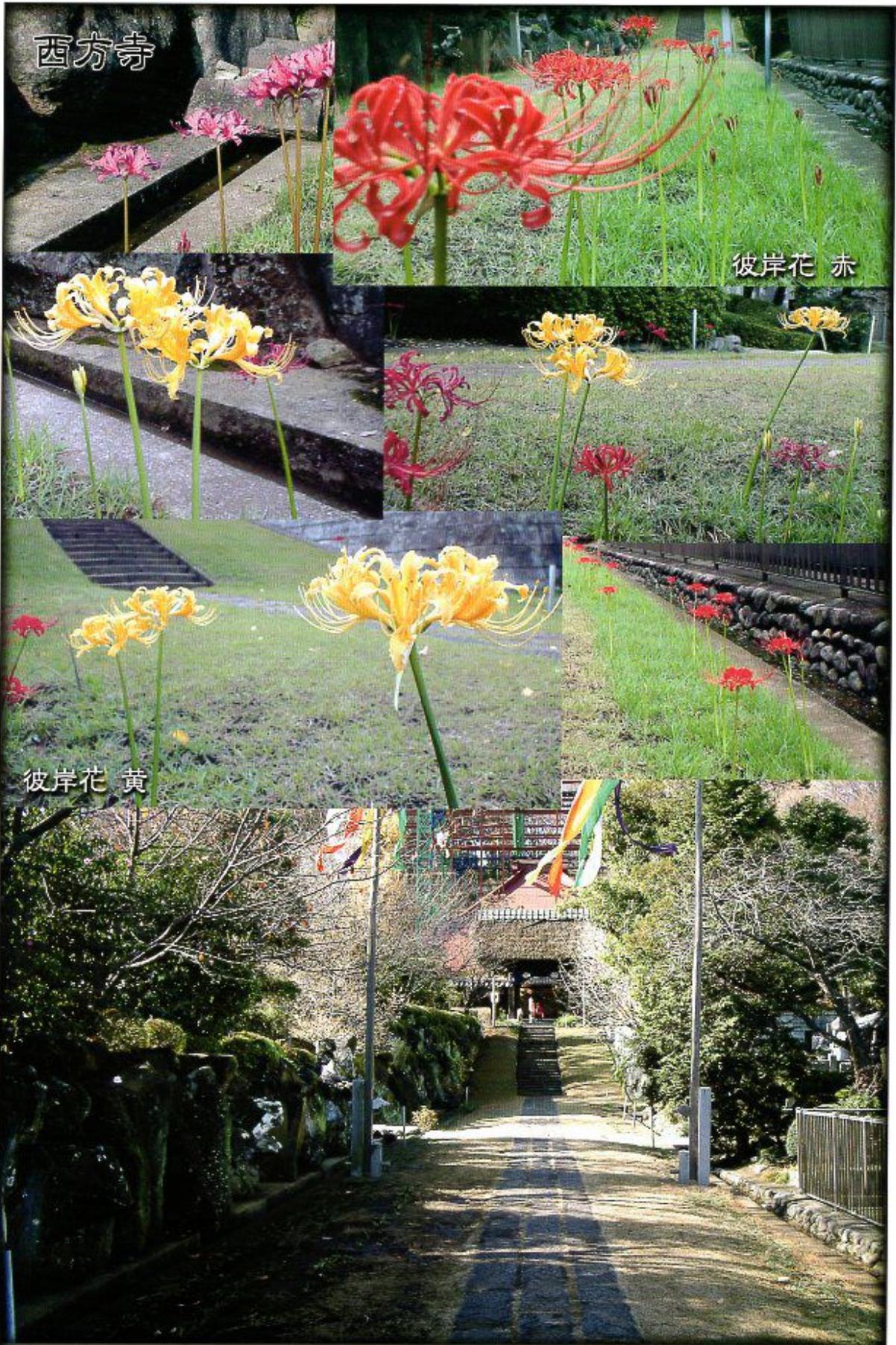
秋海堂



シラン



枝垂れ桜





光明寺で平成十八年二月下旬に、黄エビネ二百本を増植しました。

◆今後の植栽予定◆

◆善教寺◆

コブシ 一本 ハクレン 一本

◆光明寺◆

シャクナゲ 増植 黄エビネ 200本

◆新羽丘陵公園◆

ハクウンボク ニオイトサミズキ

三年計画で、延長百メートルくらいに植栽します。
また看板(新羽丘陵公園愛護会)を二本設置します。

本会の趣旨に賛同して参加いただける会員と新たな候補地としての寺社仏閣を、募集しております。ご希望の方はお申し出されればご説明させていただきますので、会長宅までご連絡下さい。

花の里づくりの会 会報第二号 2006年4月発行

発行者 花の里づくりの会 会長 中山 宏

お問合せ先 045-541-5578 (事務局 中山宏 宅)